

2016.9.30

◎文化史サロン発表を終えて

山岸昇司さんより

3・11と言えば忘れることのできない東日本大震災を想起させますが、宝石業界においても記憶すべき日であります。1969年3月11日、日本で初めて米国宝石学会のダイヤモンドグレード基準に基づくダイヤモンド・コース・セミナーが開催された日で、いわゆるG I A 4 Cシステムの教育が始まった日なのであります。以来今日までそのシステムはダイヤモンド評価の尺度として広く国内に普及しユーザーの価値判断の基準となっています。

この教育のスタートにかかわった宝石学者の一人が昨年11月に84歳で逝去された私の宝石学の恩師・喜連川純先生であります。先生は人と宝石との関係を生涯見つめ続けた稀有な宝石学者で多くの業界人を育て、多くの消費者に宝石の魅力を伝えてきました。宝石一つ一つにストレスを与えて実験し「宝石のウィークポイント表」を作成したり、結婚指輪を左右どちらの手のどの指にするかを調べ「世界の宗教と結婚リング表」を発表したり、また、エメラルドの弱点を保護強化して美しさを永遠のものとするエポキシ樹脂含浸処理法を1983年世界に先駆けて開発するなど宝石業界に与えた影響は実に多大であります。

この度、ジュエリー文化史サロンにおいて「喜連川純先生とエメラルド物語」と題し先生の功績をお知らせする機会を与えて頂けたことは誠にありがたいことで、今回発表するために奥様から頂いた蔵書や資料を一つ一つ確認しているとその時々先生との会話が思い出され懐かしくも嬉しい期間でありました。

発表にあたり、プレサロンで露木先生はじめ幹事の方々に的確なアドバイスを頂きましたので、何とか形にでき、ご報告することができました。つたない解説ではごさいましたが皆様に喜連川先生の偉業をご紹介できましたことは多少なりとも先生にも喜んで頂けるものと思っております。ご参加下さいました皆様におかれましてはお聴き頂きまして誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます

文化史サロンの風景

<http://www.j-bunka.jp/infomation/20160924.jpg>

露木より：

山岸さんのセミナーは、専門外の私が聞いても分かりやすく、なかなか感動的なセミナーでした。

セミナーに出席した方は、お聞きになった感想などお寄せ下さい。

感想送付先：info@jj-craft.com(事務局 深谷)

ジュエリー文化史研究会

<http://www.j-bunka.jp/>

※返信の必要のある方は、以下のアドレスにメールを送ってください。

日本宝飾クラフト学院 info@jj-craft.com

幹事 戸倉博之 spina@precious-chroma.com